

安 流 仲 麿

天の原ふりさけんれば
春の日はあふ
まき立の山に
もてし月かも

かゝしたnostalgiaは
あまりに普遍的な性質
のものかも知れぬ
えんが他のうしろの
歌のやうに街
ふや何かをい
だけ小倉百人一首の
うたでは
もあ
り
謂ふ所の
ふ
歌かともおもひます。

富田 碎 花